

「伝える・解かる・使う」～情報活用と大学の魅力～

1. 課題認識

まず、各自が日常で感じる大学の問題点について意見を出しあった。

- 職員内の連携不備
- 組織の縦割り意識
- 学生の受動化
- 教職員の協働不足 など

上記の問題について、今回のテーマである「情報」という観点から考えたところ、大学内部での情報流通についての問題が指摘された。

- 学生への情報伝達ツールの不足・不備
- 部署による情報把握レベルの差
- 職員研修のフィードバック不足 など

さらに話し合いを進める中で、「大学内部での情報流通にとどまらず、外部への積極的な情報公開を目指すべきではないか」との意見が出る。そこで、「人は魅力ある情報には自らアクセスする」という考えから、「大学自体の魅力が向上することにより、学生も社会も積極的に情報を取りに来るようになるのではないか」という意見がまとまり、「大学の魅力向上」が大きなテーマとなった。

2. 討議内容

「大学の魅力とは何か」を考えたときに、その一つとして、「社会人基礎力育成の場であること」が挙げられた。社会人基礎力とは、すなわち社会人として生きる力であり、現代の情報化社会では「情報活用力」もその一環として求められるだろうと考える。したがって、学生の情報活用力を育成し、社会人基礎力を身につけた学生を社会に輩出することが、大学の魅力を向上させることに繋がりうる。

そこで、学生の情報活用力を育成するために大学職員は何ができるかについて、各自が意見を出しあった。

- 情報の正確な伝達
- 役に立つ最新の情報の公開
- 提供する情報レベルの均等化

- メディア・リテラシーの指導
- 情報を活用する機会の提供 など

大別すれば「伝達」と「指導」に分けられるが、とりわけ「正確かつ最新の、役に立つ情報を確実に提供すること」が基本であり重要である。情報を正確に伝えることで、学生の得る情報量が増え、情報を活用する機会も増えると考えられる。そこで、より分かりやすい情報伝達のための具体案として、ガイダンスに焦点を当てて課題解決を図ることにした。

3. 提案内容

今回は特に、新入生向けの学生生活ガイダンスを例にして考える。

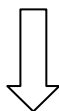
まず、従来のガイダンスについて、大学によっては以下の問題点があることが分かった。

- 資料が当日に配布される
- 資料の書式が統一されていない
- 担当者による説明内容の差異
- 重要なポイントが分かりづらい
- 当事者意識を持たせにくい など

そこで、これらの問題点を改善した新型ガイダンスを提案する。

- 簡潔なレジュメを事前に配布
- 書式の統一や工夫
- 映像化・体験型
- ガイダンスの内容を HP にも掲載する
- 学生自身にかかわる内容であることを自覚させる など

このような新型ガイダンスによって、大学職員が正確な情報を分かりやすく「伝える」ことは、学生が大学生活に対する「理解」を深めることを意味する。そして、学生は内容等を理解することで情報を有効に「活用」し、必要な情報の取捨選択ができるようになる。



「伝える・解かる・使う」流れの構築の提案

このように、学生への情報伝達を確実なものにすることが、学生の情報活用力の習得を促し、ひいては社会人基礎力の向上に結び付く。その結果、社会に貢献できる人材を輩出することができ、それがすなわち大学の魅力となって、大学自体が情報を求められる存在となるであろうことを期待する。

以上